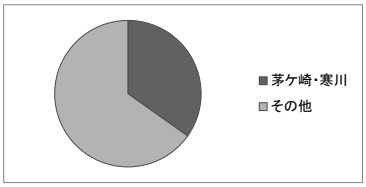
茅ケ崎高校「共生社会」講演会報告

1　日　　時　　平成 30 年 5 月 17 日（木）４校時
2　対　　象　　１学年全生徒
3　講 演 者　　鎌倉女子大学　教職センター　准教授
4　演　　題　　「しょうがい　どこ吹く風」
5　講演の概要　「しょうがい」も一つの個性であり、才能になることもある。エピソードを通して、「しょうがい」を堅苦しく考えず、生徒や先生が、「しょうがい」のある子どもとどのように関わるか、インクルーシブ教育推進校として何をすべきかを自分たち自身で考える。

「ふりかえり」用紙提出者状況

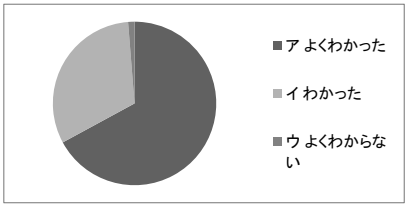
	生徒数
茅ケ崎・寒川	79
その他	148
総計	227



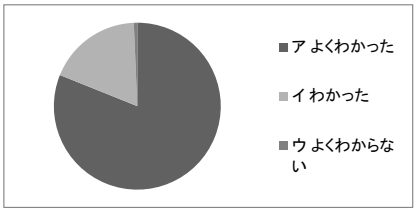
①今回の公演を聞き、お互いの違いを受け入れ、認め合うことの大切がわかりましたか。

	ア よくわかった	イ わかった	ウ よくわからない	エ 全くわからない	総計（人）
茅ケ崎・寒川	53	25	1	0	79
その他	120	27	1	0	148
総計	173	52	2	0	227

茅ケ崎・寒川



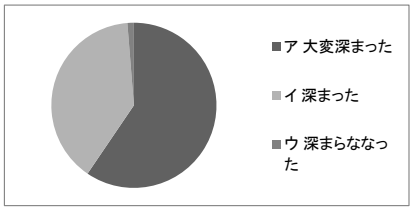
その他



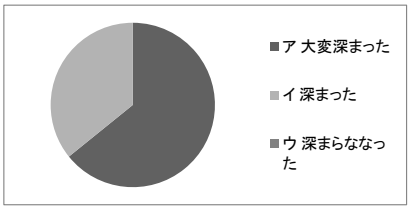
②他者のさまざまな辛さや困難さについて、自分の理解が深まりましたか。

	ア 大変深まった	イ 深まった	ウ 深まらなかった	エ 全く深まらなかった	総計（人）
茅ケ崎・寒川	47	31	1	0	79
その他	95	53	0	0	148
総計	142	84	1	0	227

茅ケ崎・寒川



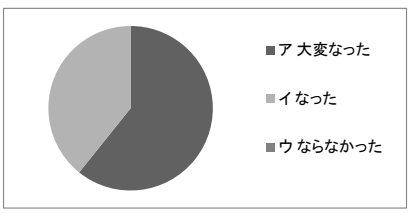
その他



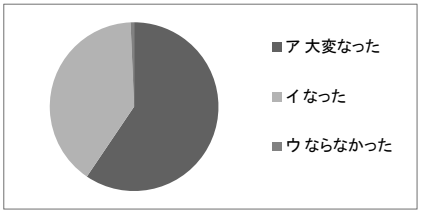
③多様性のある社会を生きる自分として、今回の公演は参考になりましたか。

	ア 大変なった	イ なった	ウ ならなかった	エ 全くならなかった	総計（人）
茅ケ崎・寒川	48	31	0	0	79
その他	88	59	1	0	148
総計	136	90	1	0	227

茅ケ崎・寒川



その他



［自由記述より］

・障がいというくくりにするのではなく、同じ一人の人として接することが普通であるということが良く分かりました。
・今の世の中は障がいのある人への対処がまだ不完全だと思うので、もっとバリアフリーが広まっていけばいいと思いました。
・歩けない人が障がい者なのではなく、駅にある階段が障がいと聞いたときすごく納得しました。
・自分も障がいがある人もみんな平等だから、一緒に同じように生活していきたいと思った。
・障がいのある人はいつも障がいということではなく、環境が障がいを生んでいると分かった。
・私の小学校と中学校はインクルーシブ教育の推進校だったので障がいのある人と一緒に生活することが何の苦でもなく楽しく過ごせます。
・とても為になりました。学校以外でもこの講演会の話を思い出せたらいいと思います。
・障がいがあるから助けるのではなく、もっと広い目で見て、ひとりの人間として助けたい。自分も困るときがくるし、それが少しだけ多いのが障がいを持つ人だと思った。
・共に生きることで人生が豊かになることが心に響いた。
・今までインクルーシブ教育についていろいろな方の講演を聞きましたが、今回の講演は今までで一番「なるほど」と思うことが多かったです。
・障がいの方たちも私たち一般の人たちと変わらないんだと感じました。今日学んだことを日常に生かしていきたいです。
・人間は平等だと感じた。友達に平等な接し方をしたい。
・今回の講演を聞いてこれからの生活にしっかり生かせるように忘れず行動したいと思いました。
・今回の講演会で今まで自分が思ったよりも障がいが身近で驚きました。みんな平等でのびのびと暮らせる世の中を作りたいです。
・障がいがある、ないではなく一人の人として見ると、本当に才能に長けていてすごいなと思いました。色々な視点から見ていて普通の人では見えないものを見ていて羨ましさもありました。
・音楽の話とかを聞いて車いすのスペースがあるのが、よい時もあるし、よくない所もあると聞いたのがすごい心に残った。
・誰もが楽しく学校生活を送れるように、今日学んだことを生かしてより理解を深めたい。
・テレビでも障がいのある人がスポーツや音楽などで成功している人が多くすごいなと思っていたけれど、耳が悪い人は目が普通の２倍良いと聞いて、だから障がいのない人と変わらず活動できる人だなと思いました。障がいのある人が困っていたら、すぐに駆け付けて助けてあげられるようにしたいなと改めて思いました。
・障がいを持っている人も持っていない人で居場所を分けないで同じ環境で過ごすことが大切だと分かった。
・図形の問題を通して、非常識な考え方と思うのではなく、普段私たちのできない天才的な見方、視点を変えた見方だと認識しようと思った。
・障がいを持った方がいることで、自分たちにとって良いことばかりだということを今日の講演でわかることができたし、もっとこの世の中にバリアフリーを増やせばよいと思った。
・障がいがあってもなくても人を大切にしていくことが大事だと改めて思いました。これから生きていく中で絶対にそういうことが起きるので守っていきたいと思いました。
・人は必ず障がいを持っているということを初めて知った。人はみんな違うから共に生きることはとてもいいことだと思った。
・これから生きていくうえでたくさんの場面で障がいを持った方と関わることがあると思います。その時、自分が何をすべきなのかとても考えさせられました。
・少しだけ障がい者を差別した目で見てしまっていました。でも、今回の講演を通して人はみな同じ人間なんだということを改めて思いました。なので、これからは自分から話しかけたり、助けてあげたりしていきたいと思いました。

・障がいのある人は自然といることが分かりました。障がいがある人でも仕事や何でもできると言うことが分かりました。
・クラスにインクルーシブの人もいるので、そういう人にやさしく接したいです。
・茅高のインクルーシブ教育のようにすべての人が同じ空間、環境で過ごせるような機会がさらに増えるとよいと思った。
・障がいは自分に関係ないことだと思っていたけど、今回の講演会で関係あるのだと思いました。講演会はとても自分の為になると思いました。
・私は今まで障がいはマイナスのイメージが強かったけど、一つの個性であり、才能でもあると聞き、これからは積極的に障がいのある子と関わり、いろいろなものの見方や考え方を学んでいきたいと思います。
・今まで障がいのある人を怖いなと思ってしまう自分がいたけど、この講演会を聞いてそんなことないということがわかったし、自分が知らなかったことをいろいろ学べてよかった。
・障がいのある人もそうでない人も全員が自分らしく生きる世の中づくりが大切なんだということをよく理解できました。そして、演習では障がいがある人たちと同じ体験することができてすごくためになった。
・共に生きることは、周りの人の相手への接し方が変わり、自分を変えるためにも、いい体験だと思いました。様々な体験をすることが、社会に出たときにも役立つと思いました。
・障がいというものは身近なものだと感じました。今回の講演会による体験を通してインクルーシブにとても興味を持ちました。
・障がい者に関するプログラムがあれば、ぜひ参加してみたいと思いました。
・自分も障がいを持っていたなんて驚きました。それだったら、あまり障がい者と分ける必要はないかと思いました。
・今までは正直障がいのある人と聞いたら、マイナスのイメージがあったけど、この話を聞いて、マイナスに思わなくなりました。
・すでに法の下に平等という考え方に大いに納得できるところがあるので、障がいのある人も普通の人と同じように生活できるような社会に、一人ひとりが行動できるとよいと思いました。
・講師の方のユーモアのある聞きやすい話で内容がとても入ってきました。障がいの有無に関係なく、すべての人が生活しやすい環境を作ろうと思います。
・私たちと一緒に生活すれば、お互いに接し方がわかって和めてよいと思います。
・障がいの人と私たち普通の人は全然違うと思っていたけど、今回の話を聞いて私たちも障がいになる時があるんだなと納得でき、話してくれた方が言いたかったことがよくわかってよかった。
・自分もちょっとした障がいを持っているのですが、友だちなどは気にせず普通に接してくれているので、支えとなってくれる人がいることはよいことだと思います。
・すべて同じ人間なのだから「障がい者」というふうに括るのはおかしいと思いました。逆に障がいがない人は、自分がその人の立場になってどう思うかなどを全員が考えられるようになると、今まで以上にしっかりとした共存社会が作れると思います。ですが、逆に障がいのある人も、その障がいを自らの逃げ道とするのではなく、個性として認め、その分障がいがない人よりも優れた才能を持つことによって、もっと社会に溶け込みやすくなると思いました。
・工夫すれば障がいはなくなると分かったので、誰でも過ごしやすいようにするのが大事だと思った。
・変に気遣う関係はいらないと思う。
・素晴らしいと思いました。心に刺さりました。
・障がいは自分にはないとずっと思ったけど、講演会で自分たちにも障がいがあると分かった。これから、障がいの人、そうじゃない人とも楽しく、学校生活を送ろうと思った。
・僕の周りにも足に障がい持っている人がいるので、そういう人も健常者と平等にみることが大切だなと改めて実感した講演会でした。
・社会が障がいを作り出していると思った。

・インクルーシブ教育という取り組みはいいなと思いました。
・障がいのある人の美術の作品を見た時、すごいなと疑問に思っていたが、一つ障がいがあると一つがすごくて上手になるんだと解決できた。
・茅ケ崎高校はインクルーシブ教育推進校でほかの学校より障がい者とコミュニケーションをとる機会が多いのが良いと思いました。これからも障がいのある人もそうでない人も優しく接して一人の人間として成長していきたいと思います。
・自分のできることをどんどん生かしてすごいなと思いました。障がいがあってもそれで分けるのではなく、共に生きることが大切だなと思いました。
・「障がいがある」から助けよう、じゃなくて「この人はここが苦手だから助けよう」っていう風にしたらいいなと思いました。教育の場で障がい者だからってあまり言いすぎると、私たちと余計に壁ができてしまうのでは？と考えてしまいます。上のように考えた方がいいのかなって。
・私たちが障がいを作ってしまうことがわかった。誰にでも苦手なことはあるので助け合っていけたらいいなと思った。
・障がいと言う言葉のイメージが変わった。「その人が」じゃなくて「環境が」なんだと分かった。最近、足に不具合がある辛さを理解できるようになったから、手助けできることはしたいと思った。
・障がいがある人、ない人とかそれ以前に同じ人であることを改めて実感した。
・自分もスクリーンの文字が初めは読めなかったので、少しのことで今生きている世の中が生きやすくされていることを感じられました。障がいがあることは、こんな風に少しのことでなくなると思ったので、もっと生きやすい世の中ができたらいいと思います。
・ヨロコビと言う文字が最初読めなかったときに「読めない人は今、学習障がいの状態にある」と言われ、今まで自分には関係のない遠いもののように感じていた障がいが、ぐっと自分の身近に感じられました。「障がいがある人もそうでない人も共に生きる」そのために、自分たちには何かできるかを考えることが大切だと思いました。
・障がいと言う言葉にとらわれていると思いました。壁をなくすには障がいと言う言葉にとらわれず、もっとたくさんのコミュニケーションや一人ひとり心を広くし、自立していくことが大事。
・お互い違いを受け入れて認め合うことがいかに大切かということが分かった。困っていたら助けようと思った。
・クラスにもそのような人がいるのでしっかりと優しく接してあげたい。
・元々、自分も茅ヶ崎高校のインクルーシブ教育に興味を持っていたので、とても面白く聞けた。特に人よりマイナスな事がある分、人よりプラスなことがあるという話が良かった。
・最初茅高はなぜインクルーシブにしたのかわからなったけど、今日の講演会で、どうしてかわかったのでよかった。
・自分は少し障がいの方に偏見を持っているのは自覚していて、このような講演会を受けて、やはり考えを改めることは努力しているが、やはり社会からどのような待遇を受けているかを調べたりすると、やはり偏見を持ってしまいます。ほんとうにすみません。
・障がいのある人とそうでない人が一緒に学ぶ「インクルーシブ学校」。正直このような人たちが一緒に楽しく学ぶことは難しいことと思います。小学校のころ、知的障がいを持つ生徒がクラスにいましたが、はっきりってかなり嫌悪されていました。優しいクラスメイト数人はたまに話してあげるのですが、一人でいる時間の方が圧倒的に多かったです。周りからの反応は中学生になっても変わりませんでしたが、中学からは障がいを持つ生徒だけで構成されたクラスがありました。もちろん彼はそこへ行ったのですが、それを境に笑っているところを何度も見かけるようになりました。「障がい者と普通の子どもを共学させて、互いの成長を図りたい」その気持ちはよくわかります。しかし、それは本当に障がいを持つ生徒のためになっているのでしょうか。むしろ、本人に孤独を痛感させているような気がします。私はインクルーシブに力を入れるよりも、障がい者支援学校の方に力を入れるべきだと思います。この先、障がい者支援がより発達し、いつか本当に「障がいを持つ生徒とそうでない生徒が、一緒に楽しく学べる時代」がくることを心より願っています。